高生の丘

北九州市立高生中学校
学校通信　受賞特集号　No.19
発行責任者　校長　寺田　訓康
ＴＥＬ　８８１－３２７６
平成３０年　２月１５日発行

■津波からの避難訓練を行いました。

７年前の３月１１日に発生した東日本大地震を忘れず、津波からの避難訓練を行いました。その際皆さんにお話ししましたが、校長先生は、去年の１１月に宮城県の女川町へ行ってきました。女川町は、津波で大きな被害にあいました。上の写真は、津波に襲われた時の町立病院の様子です。現在そこには、病院とともに、いくつかの石碑があります。下の写真は、その石碑の一つです。（「多分この辺り」と書いてあるところに石碑があると思います。）その石碑には、

「千年後の命を守るために
ここは津波が到達した地点です
もし大きな地震が起きたら
この石碑より上へ逃げてください
逃げない人がいても　ここまで
無理矢理にでも連れ出してください
家に戻ろうとしている人がいれば
絶対に引き止めてください
女川中学校卒業生」

と書いてあります。他の石碑には、同じく女川中学校の卒業生による、未来へ向けてのメッセージもありました。

東日本大震災では、皆さんと同年代の中学生が何人も命を落としました。しかし、そのような中で小学生を連れて避難して、多くの命を救った中学生もいました。あなたたち中学生は、社会のために働いてくれる力として期待されています。このような大災害の時はもちろん、日常生活の中でも、困っている人がいたらぜひ皆さんの力を貸してあげてください。

大変な災害でしたが、どの町も復興目指して頑張っています。女川の街は、高台に住宅を移転し、海辺は、水産加工工場や商店を作るそうです。こうした復興にも、中学生のアイディアや力が役だっています。皆さんも、負けないように、地域の発展に力を貸してください。

■　高生中学校はここでも頑張っています！

前回お知らせした、福岡県立美術館では、２月６日（月）～12 日（月）の間、県展に、二年生が美術で作った「オルゴール箱」の中から次の作品も展示されています。よかったら見に行ってください。

長谷川誠都君、和田倫果さん、岡明里さん、飛松琴美さん、梅谷優希さん、舩本晃樹君

また、２月１５日（木）～１７日（土）の間、久留米市勤労青少年ホームでは、第２０回福岡県中学校技術・家庭科研究会作品展が開催されています。その作品展に中嶋いくみさん、石田剣士朗君、高祖彰吾君、舛田凛太郎君、竹内綾音さん（以上１年生）のペンスタンド、江口史奈さん、宇佐美暁理さん、宮本莞多君、金色咲稀さん（以上２年生）の「お名前ワッペン」と、長谷川誠都君（２年）の「紙で作ったＤＳとニンテンドースイッチ」を出品しています。特に、長谷川君の「ＤＳとスイッチ」は、一見の価値があります。よかったら、見に行ってください。

■福原賞をダブルで受賞しました。

北九州市には、善行（よい行い）・ボランティア・地域貢献で活躍した中学生を表彰する福原賞という賞があります。その福原賞を、高生中学の生徒２組（４名）が受賞しました。

恒石君、伏塚君、山本君（みんな３年生）は、去年の２月下校中にけがをして倒れていたお年寄りを見つけました。すぐに近所の方に知らせ、救急車を呼んでもらい、救急車が来るまで側についていてくれました。家族の方は、大変喜ばれて「是非お礼を言いたい。」と学校に電話がありましたが、３人は当たり前のことをしただけと、お礼を断りました。お年寄りの方は、長い期間入院されていたそうですが、今では、ずいぶん回復されたそうです。

登校してくるときに見る人も多いと思いますが、柴田君（３年生）は、２年間に渡って、毎朝正門付近を掃除しながら挨拶をしてくれています。また、地域の行事などにも積極的に協力してくれました。

もちろん、この４人以外にも先生たちが知らないところで、周りの人たちに優しく接し、地域のために様々な形で貢献してくれている人もいます。そうしたみんなのおかげで、高生中学では多くの人たちが楽しく生活できています。これからも、みんなが少しでも、こういった気持ちを持って生活したいですね。そうすることで、高生中学校での生活はもっと楽しくなると思います。

お願い：もし先生たちが知らないところで、頑張っている人がいたら教えてください。